

平成27年3月29日発行

ゆきつばき通信

第 164 号

大町山岳博物館友の会



行事のご案内

平成27年度山博友の会 総会

友の会総会を下記の通り行います。
是非、ご参加ください。

《期 日》 平成27年4月26日（日） 午後3時～午後5時

《場 所》 山岳博物館 講堂

《申 込》 不 要

※備考：懇親会を予定しています。参加希望の方は、4月24日（金）までに事務局へお申込みください。

博物館からのお知らせ

今夏より山岳博物館では、ニホンライチョウの近縁種であるスバルバルライチョウの飼育を通じて、飼育・繁殖技術を蓄積したのち、ニホンライチョウの域外保全に貢献できるよう取り組んでいきます。

現在、付属園においてライチョウ舎を建設していることから、6月19日（金）まで閉園となります。ご来園の皆さまには、ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。

平成27年4月1日付けで職員の異動がありました。動物飼育員の尾関美穂さんが退職され、副館長（課長補佐）の鳥羽章人が館長（課長）に、主査の清水隆寿が副館長（係長）に、館長の宮野典夫が指導員に着任し、佐藤真が学芸員（主事補）として、内田木野実が動物飼育員として新規採用されました。

烏帽子の会活動報告

烏帽子の会による落倉高原雪上散策

《月日》2月7日（土） 《天気》晴れ 《参加者》 12名

烏帽子の会、2015年最初の山歩き例会は2月7日に、白馬村落倉高原で実施された。

Wさん初めてのリーダーと言う事で少し緊張気味で始まった。12名の参加で3台の車に分乗し、大町市役所を8:30過ぎに出発し落倉インフォメーションセンターに9:30に到着、スノーシュー等の準備をして上り口を10:00前に出発。

雪のフィールドへの入口がいきなりの急登で、皆苦戦して登る。その後はゆるやかな道で素晴らしい青空の中、快適な雪上歩きが続く。40分ほど歩くと見事な展望の場所に到達し、そこで爺ヶ岳から鹿島槍、五竜・唐松、白馬三山までがくっきりした姿を見せてくれ、皆でうっとりとしばし見とれる。途中ほぼ雪に埋まった鳥居を通過、その後は少し急な上り坂を登り、11時20分に本日の最高地点浅間山(せんげんやま)展望台(931m)に到着。そこで青空に生まれ、銀世界の中で、北アルプスを眺めながらの楽しい昼食を取った。

頂上では昨年75歳をむかえられたJ. S. さんのお祝いの贈呈式が催され、会員



たちの良き目標として今後共益々お元気にて登山される事を願った。

12:00に浅間山を下りはじめ、バックカントリーフィールドを軽快に散策。話も弾み楽しいスノーシュー歩きで、13:40に出発地点のインフォメーションセン

ター前に到着。

インフォメーションセンター前を出発し、白馬「八方の湯」にて一日の汗を拭い、疲れを癒し、一路大町市役所へ。大町市役所に15:30到着。素晴らしい好天の中での、新雪歩きを楽しんで、皆さん最高の満足感を得て解散。それぞれの家路に着いた。Wさん初めてのリーダー本当にご苦労さんでした。

報告 川崎



ボランティアサークル便り

今年度は新たに「山と博物館」発送準備ボランティアを毎月実施しました。3月29日(日)を最後に平成26年度の活動は終了します。研修等含め延べ200名を超える参加がありました。お疲れさまでした。平成27年度の活動は4月からスタートします。

ボランティア保険は3月31日で期間終了となりますので再加入の

手続きをします。ボランティアサークル継続の確認をさせて頂きながら保険料200円徴収させて頂きます。新たにボランティアサークルにご協力して下さる方は、ボランティア保険加入が条件です。博物館友の会事務局までお申し出ください。随時、受け付けております。

平成27年度も4月から屋外の環境整備、さくらそう管理、5月連休の博物館事業への協力が始まります。通信発送準備も含めて毎月、第3日曜日に友の会ボランティアを予定しています。新年度は研修を活かし館内ガイドをする機会を多くしたいと思っています。

有川美保子

さくらそうポットの除草をします（5月連休に大町駅周辺展示に備えます）
4月19日（日）午前9時～
ご協力ください。



山博展示改装 解説ボランティアガイド録音より 4

1階 山と人 展示について（解説：関学芸員）

峠を越える—針ノ木峠の歴史—

1階は従来通り人文科学の展示になっています。ただし、今回の展示改修は1階がメインということで一新してあります。山小屋の模型を残して、全部新しく作り変えました。

入口に掲げているテーマは「山と人」です。北アルプスと人とのかかわりということで、北アルプスと人が古い時代から現代にかけてどのように関わりを持って過ごしてきたかを展示しています。

今回、1階の展示で何が一番変わったかということ、これまでの展示は明治以降の近代登山、レクリエーションとかレジャーで登る登山を中心に紹介してあり、海外の登山も多く紹介していましたが、今回はローカルな視点から、この北アルプス、山と人がどんな関わりを持ってきたかに視点を置いて、近代登山以前、江戸時代以前の山と人との関わりについて詳しく説明したり、登山の歴史、登山史だけでなく、いわゆる山岳文化史というか山と人との関わりの全体像をこの展示で紹介しようとしています。

順路は、今までは反時計回りでしたが、今回は時計と同じ左回りになっています。人の体は左へ左へと行く習性があるようです。

導入の展示では、現代のお話をしていきます。山の魅力ということで、写真を元にしたイラスト風のバナーをかけてあります。

現在私たちは山に登るときはいろいろな楽しみを持って登るということで、すばらしい景色に出会ったり、観光的なダムを見に行くのも山との関わりですし、冬になればゲレンデに行ってスキーやスノーボードを楽しむのも山との関わりです。もっとスポーツ的な登山ということでロッククライミングをするのも山との関わりですし、山の写真を撮ったり山の絵を描いたり、そういう芸術文化で山と関わるというように、いろいろな山の魅力ということで紹介しています。

古い時代から山と人はどのような関わりがあったのかということ（1階に入って）左の壁面と下の（平台の）展示で紹介しています。壁面の方は、北アルプスと人の関わり年代記ということで、古い時代から現代まで、時代ごとの特徴的な山と人との関わりをイラストで紹介しています。一部イメージ的なものも含まれていますが、その時代ごとの象徴的なものを紹介してあります。時代に対応するように、下の方を見ていただくと、「峠を越える—針ノ木峠の歴史—」というテーマで、針ノ木峠の歴史を紹介しています。やはり峠というのは、北アルプスに関わる峠以外にも各地にあると思いますが、たとえば人が行き交った峠、それから物が行き交う峠、そうすると文化が交流するというのが峠になります。北アルプスにもたくさんの峠がありますが、大町から一番近くて有名なところは針ノ木峠ですので、そこを中心に針ノ木峠の歴史を各時代ごとに紹介しています。

イメージ的に、北アルプスの登山ということ、明治以降のウェストンさんや日本山岳会の小島鳥

水さんが初めて登ったというイメージがあったり、いろいろな本で、「点の記」といった映画の中でもそのような話が出てきますが、そのようなことは無くて、江戸時代以前から北アルプスは本当に多くの人はいり込んでいた場所です。

(展示物) 小さいですが、地図を見ていただくと、黒部溪谷があって、後立山連峰の山々があります。剣、立山があります。針ノ木周辺の地形図になりますが、いろいろな色でルートを書いてありますが、江戸時代以前からこれだけ人が行き来していたというのを、ひとつの図に落とし込んであります。現代の立山黒部アルペンルートもはいつていますので、いろいろな道がありますが、江戸時代から人がたくさん入っています。明治になって登り始められたのではないということが、この図を見ていただいただけでもわかると思います。

一番左(壁面展示)が先史時代になりますが、縄文時代では山とのかかわりは、直接登るということはそれほどなかったようですが、ふもとから山を眺めて神様がいる場所ということで崇めながら信仰の対象としていたのではないかとされています。

中世、平安時代以降になってきますと、もう少し人が行き来した記録が残っています。富山県側から信州へ人が来たり、こちらから富山の立山へお参りに行ったりといった交流が記録の中にも出てきます。佐々成政の冬の北アルプス越えはとても有名な話で皆さんご存知ですが、戦国時代の富山の城主の佐々成政が冬の北アルプスを越えて浜松の家康に会いに行ったという話が伝わっているのですが、これはあくまでも伝説ということで、実際はよくわからないというのが本当のところですが、肖像画が飾ってありますが、江戸の終わりから明治のころになると、佐々成政の北アルプス越えが英雄の話ということで、浮世絵や歌舞伎の世界に題材としてとりあげられるようになりました。いろいろな軍記物やヒーローを描いた出版物の中にも佐々成政が出てくると、そういうイメージ像が膨らんで佐々成政の北アルプス越えというものも方々に伝説として伝えられていったと考えられますが、実際のところは良くわからないのです。

この辺(展示)は近世、江戸時代に入ってから紹介になりますが、針ノ木峠周辺は黒部溪谷なので、いろいろな森林資源が豊富にあったということで、たくさん木が伐り出されています。江戸時代半ばになると、加賀藩が、お締め山(おしまりやま)ということで、北アルプス帯を一般の人の入山を禁止します。これは貴重な木材資源がある山に一般の人がたくさん入って盗伐されては困るということ、それと国境(くにざかい)、加賀藩と松本藩の国境が北アルプスになっているので、そこを自由に行き来されると、国が持っている大事な情報を他国に漏らしてしまうといったこともあるので、軍事的な要請、政治的な要請からも一般の人を入れることを禁止したということです。ただし、ここで、江戸時代に大きな問題が出てきています。信州側と越中側で国境の認識がだいぶずれていたようで、盗伐さわぎというのが起きています。絵図がありますが、加賀藩ではこの国境を針ノ木峠がある後立山連峰としていたようです。ただ信州の人は黒部川が境と認識していたようで、これ(展示物)は大町側でつくった江戸時代の絵図ですが、上の方にある山が北アルプスなのですが、高瀬川の文字が見え、赤く示した道があって、上に横向きに書いた文字で、たいら川信濃越中御境と書いてあります。ここでたいら川とは太良川、だいらがわともいわれていますが、これは黒部川のことです。信州側ではここが信越境とみんな認識していてここからは道が良くわからないと書いてあります。絵図ではそこまでしっかり描いてあります。このため信州の人は針ノ木峠を越えて黒部川まで下ってそこで木を切っているわけです。

そんな認識の違いがあって、江戸時代にひとつの事件が起きます。ここに古文書がありますが、難しい字でいろいろ書いてあるのですが、何が書いてあるかというのと、1700年代、江戸時代に、信州側から黒部の谷に木を切りに行ってきたきこりたちがいました。その人たちが越中の山まわり役にみつかって、「お前たちはどこから来たのだ」聞かれて「信州から来たきこりだ」というのですけれど、「国境は針ノ木峠だからお前たちは国境を犯して入っている、すぐに帰りなさい」といわれるのです。しかし、きこりたちは野口の山元締めというか、材木を管理する人に雇われて

お金を借りて山に入っているから「勝手に自分たちで帰れない。雇い主に意見を聞いてからでないと動けない」といって、数日待ってもらいます。結局山の中で、すぐには使いの者が行ってはこれないので、結局加賀藩の役人たちは連絡がないので、「小屋を焼き払うからお前たちは帰れ」と言って杣小屋を、木を里に下せる材に加工する作業小屋を作っていたのですが、それに火を付けて追い返すという事件がありました。（古文書は）その一部始終を大町に帰って大町の庄屋に報告している文章です。その後も騒ぎがあって、その後の事件では実際に山まわり役につかまって加賀藩まで連れて行かれる人が出ました。サンキチという若者ですが、高根出身のサンキチはその後死罪となって殺されてしまいました。御用林の盗伐というのはそれだけ罪が重いという見せしめのため、死罪にしたといわれています。ひどいのがその後で、高根村に加賀藩からサンキチという者がお前たちの村にいるはずだ、その者を確認したいと連絡が来るのですが、当時の高根村の役、庄屋たちは加賀藩はたいへん大きな藩なのでいろいろいざこざが起きると困るということで、いっさい知らないと返事をしているという話で、サンキチというのは確かに居たけれど、その後家を出て名前を変えて違うところに住んでいるという言い方を返しているのです。そんなサンキチ事件といわれるような盗伐事件がありました。その当時は野口村、今の大出野口は森林資源伐採で大きな財を成した村だったと思われまます。

その後時代が新しくなって明治になると、今度は北アルプスを抜ける道を人と物の行き交う有料道路にしようという動きが出てきます。ここ（展示物）に信越連帯新道と書いてあるのですが、先ほど野口の元庄屋の飯島家というところで動きを起こすのですが、大町周辺の庄屋たちと開通社という会社を作って、結社ですね、また、石川県側も元藩士の方々がお金を出し合って、開通社を作り、その会社によって道が一度ひらかれます。しかし、たいへん険しい道ですので、結局2シーズンくらいで廃道になってしまいました。その辺に關係する記録が展示されています。切ないのは、かなりの目論見を立てていたようで、海産物がどのくらいだ、塩はどのくらいだと、その数量が半端でなくて、この道ができれば何百トンも行き交えるという文章を松本藩と加賀藩に出しています。（つづく）

ゆきつばき通信編集室より _____

今回は次年度総会のご案内になります。次年度からは4月に総会を行うことが昨年の総会で承されました。少し足元の良い時期になるかと思えます。

本年は役員改選の年になります。ぜひ多くの方に会の運営にかかわって盛り上げていただければと思います。

（丸山卓哉）

ゆきつばき通信 第164号

発行／大町山岳博物館友の会 平成27年3月29日

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館内 山博友の会事務局 Tel/Fax 0261-23-6334

会費振替口座番号 00550-2-24194 加入者名 山博友の会

山博ページ <http://www.omachi-sanpaku.com/>

友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています